

授業科目 共通技術論 I	区分・教育内容																		
授業担当者 大塚 紀子 (専任教員)	開講時期 前期	単位 1 単位	時間数 30 時間																
授業の目的 対象理解と看護実践の基礎となる共通技術を習得する。 授業の目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護技術の概念を捉え、看護技術を適切に実践するための要素がわかる。 2. コミュニケーションの意義と効果的なコミュニケーションの方法がわかる。 3. ヘルスアセスメントの意義・方法がわかる。 4. 看護記録・報告の意義・方法がわかる。 5. 安全確保の意義・方法がわかる。 6. バイタルサインの意義・方法がわかり、学生同士での測定ができる。 																			
授業概要 「看護技術とは何か」という概念を捉え、看護技術を適切に実践するための要素と基本原則、安全確保の基礎について学ぶ。対象を把握するためには、コミュニケーションの成立、情報収集・分析が必要である。効果的なコミュニケーション、ヘルスアセスメント、バイタルサイン測定の技術を学ぶ。また、情報や看護実践の結果を記録・報告する意義と方法について学ぶ。 授業計画(進め方) <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">1 回目</td> <td>技術論 看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための要素</td> </tr> <tr> <td>2～4 回目</td> <td>コミュニケーション コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの構成要素と成立過程、関係構築のためのコミュニケーションの基本、効果的なコミュニケーションの実際</td> </tr> <tr> <td>5 回目</td> <td>ヘルスアセスメント</td> </tr> <tr> <td>6 回目</td> <td>看護記録・報告</td> </tr> <tr> <td>7・8 回目</td> <td>安全確保 安全確保の基礎知識、事故分析、危険予知</td> </tr> <tr> <td>9～ 11 回目</td> <td>バイタルサイン バイタルサインとは、バイタルサインの観察とアセスメント、測定方法</td> </tr> <tr> <td>12・13 回目</td> <td>バイタルサイン測定(演習)</td> </tr> <tr> <td>14・15 回目</td> <td>バイタルサイン測定(到達確認)</td> </tr> </table>				1 回目	技術論 看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための要素	2～4 回目	コミュニケーション コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの構成要素と成立過程、関係構築のためのコミュニケーションの基本、効果的なコミュニケーションの実際	5 回目	ヘルスアセスメント	6 回目	看護記録・報告	7・8 回目	安全確保 安全確保の基礎知識、事故分析、危険予知	9～ 11 回目	バイタルサイン バイタルサインとは、バイタルサインの観察とアセスメント、測定方法	12・13 回目	バイタルサイン測定(演習)	14・15 回目	バイタルサイン測定(到達確認)
1 回目	技術論 看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための要素																		
2～4 回目	コミュニケーション コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの構成要素と成立過程、関係構築のためのコミュニケーションの基本、効果的なコミュニケーションの実際																		
5 回目	ヘルスアセスメント																		
6 回目	看護記録・報告																		
7・8 回目	安全確保 安全確保の基礎知識、事故分析、危険予知																		
9～ 11 回目	バイタルサイン バイタルサインとは、バイタルサインの観察とアセスメント、測定方法																		
12・13 回目	バイタルサイン測定(演習)																		
14・15 回目	バイタルサイン測定(到達確認)																		
テキスト 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる 第1版 メディックメディア																			
参考書・指定図書																			
評価の方法 筆記試験																			

